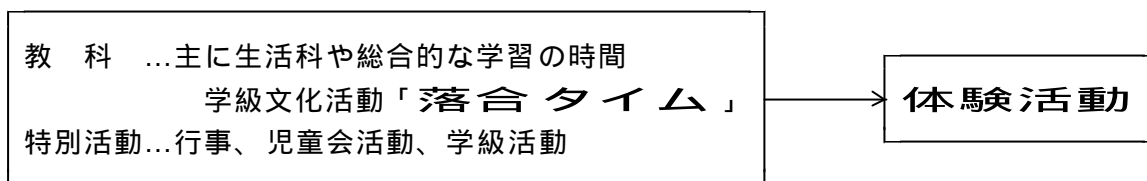


1 テーマ

「地域の豊かな自然や文化と共に学ぶ子どもたち」

2 本校における「体験活動」の教育課程上の位置づけ

本校のある富士見町落合地域は、八ヶ岳や釜無山、甲斐駒ヶ岳のすそ野に囲まれ、谷にはカジカも棲む釜無川が流れ、宿場町「蔦木宿」がある甲州街道を含む、自然や社会的文化遺産も豊かな地域である。そこで、本校では、このような自然や社会的な文化や風土を大切にしたいと考え、教科や特別活動全般にわたり体験活動を取り入れた学習を大切に実践を積み重ねてきている。



本校では、その中でも、特に平成7年度より今まで8年間に渡って「落合タイム」と称して、学級独自の体験活動の学習の場を教育課程の中に位置づけ、地域や保護者の方々と共に学級文化活動の実践を積み重ねてきている。

ここでは、学校・学級集団の共通目標の意識を高め、集団としての成就感や自己肯定感を育成したり、調査活動を通して、子ども一人一人の成就感や自己肯定感を高め、個性と生涯学習の情緒的基礎（自信や意欲）を培ったりしている。また、互いを認め合い、磨き合う心を伸ばしたり、故郷の自然と文化を知るとともに、地域に開かれた学校を作ったりすることを目標としている。

それぞれの学年のテーマの設定にあたっては、地域の題材を積極的に取り上げてきているが、必ずしも地域の自然や文化を題材としなくてはならないというような規定はしていない。子どもたちの自主性を大切に考えて、子どもが見つけたこと、疑問に思ったこと、調べたいこと、やってみたいことなどを大事にしつつ、教師の指導できる得意分野とも折り合わせながら学習を組み立ててきている。また、教科の学習や行事などで地域に出かけた時、地域の自然や人々の生活の様子に触れ、そこで子どもたちが抱いた「はてな」から出発し、その問題を解決しようとして学習が進んでいくこともある。

本校では、ここ数年ほど前から夜間に実施されている学校開放講座の一つとして、3年生と6年生が学校で地域住民に自分たちの落合タイムでの学習の成果を発表したり、1月下旬に学級文化発表会を開催したして、保護者に子どもたちの「落合タイム」の活動の報告会をしたりしてきている。

子どもたちがこのような学習を通して、自分たちの住んでいる落合の町の自然や伝統のすばらしさを肌で感じ取ってほしいと考え「落合タイム」を中心に体験活動の学習の実践を積み重ねてきている。

3 「落合タイム」での体験活動の実践

平成14年度「落合タイム」の実践は以下の通りである。

- ・「おもしろランドであそぼう」（1年）・「竹と友だち」（2年）
- ・「落合の花暦しらべ」「大豆の栽培学習（みそ・豆腐作り）」（3年）

- ・「ハロー、先生（中学校のALT）（国際交流）」（4年）
- ・「楽しい収穫祭にしよう～米作り～」（5年）・「和太鼓に挑戦」（6年）

4 特別活動での体験活動の学習実践

本校では、行事や児童会活動、学級活動等でも以下のような体験活動を行っている。

<p>【行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に学ぶ（釜無川での川遊び）、遠足（近隣の野山や八ヶ岳などへ） ・西伊豆交流（西伊豆の姉妹都市の小学校との交流：5年） ・福祉施設との交流（連学年毎に）
<p>【児童会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀杏拾い集会、花壇作り、リサイクル運動
<p>【学級活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培学習（ソバ、大豆、ジャガイモ、サツマイモ、米、野菜 収穫祭、焼き芋大会） ・うさぎの飼育（1・2年） ・キャンプ、中学校の文化祭見学（6年）

5 「落合の花暦しらべ」の実践の実際

以下に、今年度の3年生の「落合の花暦しらべ」の実際を報告する。

（1）趣旨

子どもたちは自然に囲まれた生活をしていても、木々や草花の名前や特徴を知って生活をしていることは少ない。しかしながら、本校のある落合地域は、豊かな自然に囲まれ四季を通じて豊かな草木に囲まれている。この豊かな自然を春から冬まで観察していくことで身近な自然の四季の美しさや地域の再発見ができると考える。幸い3年生の子どもたちは、1・2年生の生活科の中での地区探検の学習を通して、自分たちの地域にどんな花が咲いていたか自分たちの目で見てきている。



そこで、身近な落合の四季の植物の移ろいに目を向けて、自分たちの身近に見られる植物がどこでいつからいつまで花を咲かせているのが調べることを通して、落合の豊かで美しい自然を自分たちの目や足で感じとることができればと思い、このテーマを設定した。

（2）活動の経過

4月から10月末まで、毎週2時間ほど学校近隣の野山に出かけ、そこで見られた花の咲いている植物を調べ、花の咲いている植物の種類の時間的な移り変わりを調べてきた。

また、インストラクターの方にも同行いただいて、7月末には富士見町と山梨県との境を流れる富士川支流の釜無川の源流に出かけたり、10月半ばには富士見町の西に位置する晩秋の入笠山に出かけたりして、そこに見られる植物の自然観察にも出かけてきた。

子どもたちと花暦しらべをした観察日は、以下のものである。

4/9, 4/12, 4/15, 4/22, 4/26, 4/30, 5/7, 5/14, 5/22, 5/28, 6/4, 6/14, 6/20, 6/24, 7/5, 7/19, 8/21, 8/29, 9/9, 9/25, 10/15, 10/29 学校周辺の野山の植物観察（計22回）

7/25 釜無川上流から源流にかけての植物観察

10/24 入笠山の上部の植物観察

11月以降、子どもたちは、それまで子どもたちと一緒に歩いた担任がデジタルカメラ

で撮影した植物のデジタル画像を、パソコン室で一人約40枚ずつ観察期間ごとに分担してプレゼンテーションソフトに取り入れた。

発表に向けて一人20枚から25枚ほどの画面を発表データとして作り、12月4日には地域の学校開放講座で4月から10月末までの落合の花暦の観察の成果を、50名ほどの地域の方々の前で2時間弱にわたって発表した。

また、全校児童とその保護者対象の1月31日の学級文化発表会でも、その抜粋を発表した。



(3) 成果

花暦の学習を終えた子どもたちの感想文から

花の中には、春から秋までずっとさいていた花もありました。春にさいて夏にさかないで秋になってまたさいた花もありました。春には、いっぱいさいた花が夏にはちょっとしかさいていない花もありました。発表をする時は、とってもドキドキしました。大きな声でやりました。来年もがんばりたいです。

男子児童

早春から晩秋までの季節に渡って花暦を調べることを通して、落合の自然のすばらしさに気づくことができ、今まで何気なく見ていた身のまわりの花々について興味を持って感性を生かして接することができるようになった。

10月29日の時点で、草本445種、木本165種、計610種を確認できている。この中には、長期間にわたって花を咲かせ続けている種類と短期間で花の時期が終わってしまう種類が見られる。また、花の時期が短期間の植物は、種類によって開花期に順番があることも明らかになってきた。



また、会話や質問などを通して、保護者やインストラクターや釜無川工事事務所出張所、入笠山のロープウェイや山小屋の方々のように様々な人たちとも豊かにふれあうことができた。

学校開放講座での発表会では、小規模の学校であるが故に、大勢の前で発表する機会が少ない子どもたちが、緊張しながらも自分たちが調べてきたことを堂々と発表することで、貴重な経験を積むことができた。

6 活動の評価方法

活動の評価方法については、以下のようなものを考えて実践している。

関心意欲態度	学習への参加態度、学習の取り組みについての自己評価の状況
思考判断	観察調査用紙への記入状況、感想文、会話の状況
観察調査	観察調査用紙への記入状況、課題解決場面での資料等の活用状況
知識理解	学習のまとめ、発表内容、感想文、会話の状況

7 学校支援委員会の組織・運営

体験活動の学習実践の場を生活科や総合的な学習の時間のように教育課程の中に位置づけ、計画の立案、実施計画、支援体制など全職員で協議して推進している。

そして、以下のような推進及び支援体制を組んでいる。

【豊かな自然体験活動推進委員】
校長、教頭、総合的な学習の時間の係主任、活動を実施する学級担任

【学校支援委員会】

青少年育成推進委員

自然観察インストラクター

町史編纂委員

8 推進地域としての取り組み

町の教育委員会、町内の全小中学校や高校・養護学校の校長、各校一名の推進地域協議員、地域の自然インストラクターからなる「豊かな体験活動推進地域協議会」を構成して、年間4回の会合を開催して、活動の計画や実践の反省を行うとともに、お互いの情報交換をしている。

9 活動の成果

- (1) 毎年各学年とも保護者や地域の人々等の協力を得て、充実した学習がなされてきている。最近、パソコンやデジタルカメラなどを有効に使った学習も見られる。
- (2) 子どもたちが体験学習で学んだものをより確かなものにするために、外部に発表するなど開かれた学校づくりが進められている。また、自分たちでパソコンを使ってまとめ、発表することができ、大きな自信となるとともに情報機器の活用能力も向上している。
- (3) 毎日通ってきている落合の道ばたや林に咲いている植物について調べることを通して、落合の自然の素晴らしさに気づくことができ、今まで何気なく見ていた花々について興味を持って接することができるようになった。
- (4) 身近にある林や森に行き、講師の先生の話や調べ学習を通して、林や森のあるべき姿を知ることができた。また、実際にカラ松の間伐やズミの木の除去の体験を通して林や森を身近に感じることができ、自然を守ることの大切さを知ることができた。
- (5) 講師の先生に質問するなど積極的に地域の人や身近な人にかかわろうとする姿が多く見られるようになった。

10 今後の活動の課題

- (1) 計画の段階では、もう少したくさん体験活動ができると考えていたが、教科学習、行事の関係で時間をうまく確保することができなかった。「今やれば・・・」という時機を逸してしまった活動もあった。1年の流れを考えたり、子どもたちの意欲の高まりを考えて綿密に計画をきちんと立てて実行していきたい。
- (2) 地域の自然や人々との豊かなふれあいを進めるには、事前に教師が地域をある程度理解しておく必要がある。このネットワークの構築がこの学習には大切な課題である。
- (3) 体験活動には危険が伴うことも多くあるため、担任以外の引率者を計画的に組んでおく必要があった。来年度は計画的に進めたい。
- (4) 活動支援委員会は打ち合わせという形では実施できたが、活動全体を見通して協議していただく機会を持つことができなかった。活動を見通して、活動の節目には、支援委員会を持つようにしたい。